

# こんにちは、 岐教事です！

岐阜教育事務所だより  
No. 5  
平成 29 年 8 月 29 日発行

子育てのために「社会総ぐるみ」で一緒に汗をかきましょう！

～地域学校協働活動の充実を～

教育支援課 学校地域連携係（社会教育担当）

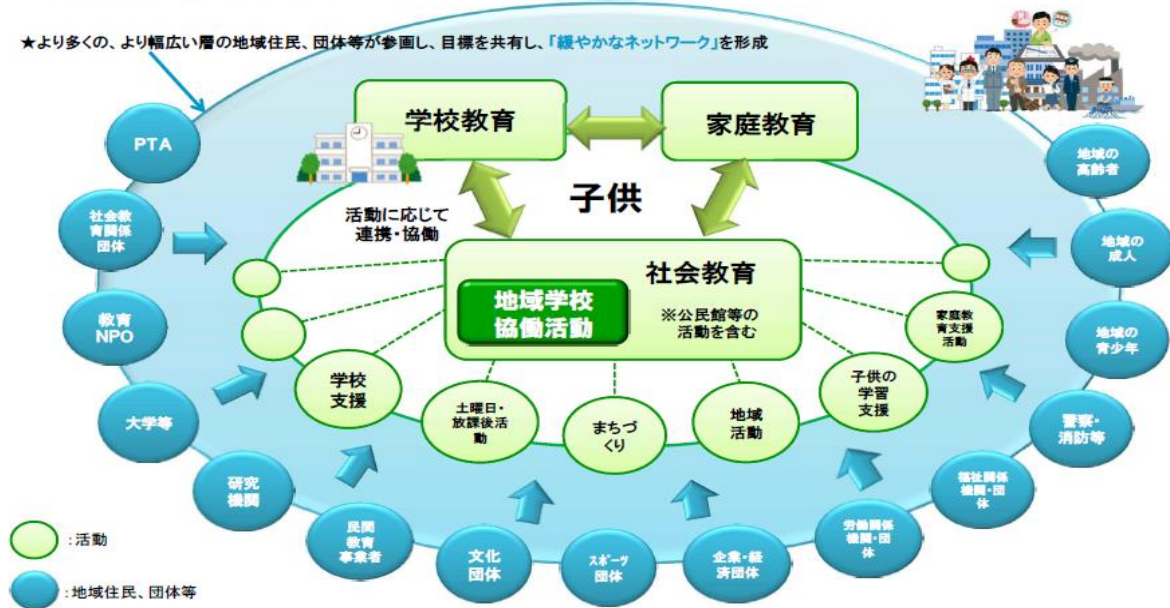
現在、岐阜地区ではコミュニティ・スクールの指定が進みつつあります。国も、地域と学校が「連携・協働」して、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく活動（＝地域学校協働活動）を積極的に推進していこうとしています。

以下の活動概念図（平成 27 年 12 月 文部科学省）をご覧ください。

## 地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではない、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成



子育ては、ややもすれば学校と家庭が中心になって行い、その学校と家庭を地域が支えるという構図ができがちです。しかし、学校や家庭が抱える複雑化・困難化した課題を解決し、子ども達に生きる力を育むには、地域住民等の参画が必要になってきているのです。子育てに「社会総ぐるみ」で取り組む仕組みが必要になってきているのです。

岐阜地区管内でも、既に様々な取組が始まっています。学校運営協議会を中心に、「地域としてどんな子どもを育てたいか」という目指す姿を共有し、ふるさと教育をはじめ、地域でこそ行える活動を地域の方々が中心となって企画・運営を進めてみえます。

また、各自治体においても、地域未来塾・放課後子ども教室による子どもの学習支援、土曜日の教育活動における子どもの居場所づくり等、地域の人材を活用した子育ての仕組みを作っています。

「社会に開かれた教育課程」が求められている今、地域学校協働活動という視点からも、学校教育の在り方を見つめ直してはいかががでしょう。

## きれい！と光る すてきな実践を紹介します！

### 歴史を学ぶ意味 を考える

#### 社会科編



小学校第6学年において、「3人の武将と天下統一」の授業を参観しました。その授業の終末の場面において、ある児童が次のように発言しました。

「なんか誇らしい。あの信長がつけた名前の学校に通っているなんて。」  
「歴史を学ぶ意味を考える」ことは、小学校の歴史学習のねらいの一つです。まさにこの児童の姿は、そのねらいにせまる姿です。このような姿が生まれた背景に、学んだことを基に、郷土を見つめ直す学習活動の工夫が挙げられます。具体的には、信長の働きを「経済力に支えられた軍事力」とまとめた後、授業の終末で、経済力を付ける政策につながる地名が校区内にないかを考えさせる活動を位置付けたことです。この活動によって、過去の出来事と自分たちの生活との関連を考え、先人の働きについて実感をもって捉えることにつながりました。終末の工夫によって、小学校らしい歴史学習の展開を実現している実践でした。

### 課題解決に つながる交流

#### 算数・数学科編



小学校第5学年「小数のわり算」の授業を参観しました。小数倍にあたる大きさを考える場面です。考えを確かにするためのペア交流が行われましたが、ここに効果的な指導の手立てがありました。

まず児童全員が、2本の数直線だけかかれたラミネートシートをもっており、そこに数値や目盛りのかき込みができる教具を持っていました。そして、交流の際には、聴き手は話し手の説明を聴き、その説明通りの数直線図をかくという学習活動が行われていました。このように児童の学習活動を具体的に設定することで、「数量の変化や対応の関係を数値や式を用いて説明すること」、「順序立て落ちや重なりなく説明すること」を意識した児童の姿がありました。対話を通して、数学的な表現の質を高めている実践でした。

### 話し合う足場を 大切にした指導

#### 技術・家庭科編



中学校第1学年において、「B 食生活と自立」の「中学生の時期に必要な栄養素の特徴を理解する」授業を参観しました。

学習課題である「成長期の私たちには、どのような栄養素が必要だろうか」を解決するために、まず教師が、食事摂取基準の比較表を示し、そこにある数値の意味や見方を指導しました。さらに、既習内容である栄養素の種類と働きを再確認するとともに、一覧にまとめたプリントを各グループに配布しました。すると、生徒たちは、それらを根拠にしながらグループで話し合い、考えをまとめました。グループの中には、男女や年齢の違いによって必要な栄養素が異なることに着目するなど、新たな問いを見だし、追究しようとする姿も見られました。

教えるべき内容を教え、話し合う足場をつくることで、生徒たちが主体的になって課題解決に向かう実践でした。